

Vol. 56

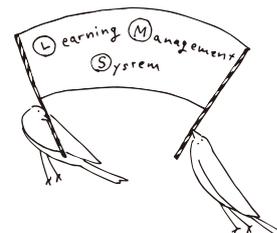
CONTENTS

- 【コラム】授業の道具としての情報技術の役割は?… 三石 大
【解説】新しい高度 ICT 人材育成のためのデザイン演習—社会の問題を発見・解決する視点—… 木塚 あゆみ
【解説】e ポートフォリオ 2.0 —教育ビッグデータ時代の e ポートフォリオとは—… 森本 康彦

COLUMN



授業の道具としての情報技術の役割は？



大学教育での情報技術の活用は、今やすっかり当たり前と言っても過言ではなかろう。教室に PC を持ち込み、スライドを提示しながら授業を進めることはごくごく一般的なスタイルだろうし、多くの大学で LMS（学習管理システム）の導入が進み、資料配布やレポート授受に活用されていると思われる。eラーニングによる復習や SNS による議論など、より積極的な活用を試されている方も多い。こうして見てみると、授業のやり方も一昔前とはずいぶん変わったものである。

もちろん、教員全員が情報技術を使う必要があると言われても決してそんなことはなく、黒板があれば授業はできるし、教科書やノートがあれば学生も復習できる。レポートも紙で提出してもらえばいい。そもそも情報技術を利用ただけで教育が良くなるものではないし、効率的かと言われると、必ずしもそうではないことを多くの方が感じておられることだろう。逆に、紙芝居よろしく次々とスライドをめくっていく授業は、一見分かりやすそうに見えるが、その効果には疑問が残る。そんな理由もあり、自分の場合、すべてとは言わないがいまだ板書を心掛けている。

ところで、私が勤める大学では比較的早い時期から LMS が導入され、当初からビデオストリーミングの機能まで備わっていたりする。要は、社会人学生など通学が困難な学生が遠隔地からオンデマンドでも受講できるように、というものだ。何を隠そう私も運用担当者の 1 人で、学内における普及促進に努めなければいけない立場だったりする。

そんな中、私自身も、担当する授業の一部をビデオ収録し、LMS から視聴できるようにしている。元々は自身の授業改善のために撮影していたところ、欠席した学生から見せてほしいと要望があったのを機に LMS にも登録することに次第だが、実際にはほとんど誰も見てないだろうと高をくくっていた。が、視聴履歴を見ると、毎回の授業で 1 割ほどの学生が見ているではないか。そこで、授業ビデオが役に立ったかどうかアンケートをとって見たところ、回答のあった学生のうち約 3 割が視聴したことがあり、評判もなかなかよい。どうやら熱心に学びたい学生の役に立っていたようである。

授業を収録し LMS に登録するのは一手間であり、正直なところ煩わしい。しかし、学生にとっても役に立っていたとあれば、その甲斐もあったといえよう。効率化や省力化だけではなく、教育効果の向上を目指し、今後も情報技術の活用を模索したいと思う。

三石 大(東北大学)